

解答プリント「中学社会・地理的分野」

■発展プリント

11 東北地方／北海道地方

【評価の観点】 ㊦：思考・判断・表現 ㊦：技能 ㊦：知識・理解

解答例	解説
<p>1 ㊦ (1) 秋田の沖合は暖流の対馬海流、宮古の沖合は寒流の親潮が流れているため。(34字)</p> <p>(2)</p> <p>㊦ ① イ</p> <p>㊦ ② エ</p> <p>㊦ ③ ア</p>	<p>1 (1) 秋田の沖合には、日本海流〔黒潮〕が沖縄島の北で分かれて日本海を本州に沿って北上する、暖流の対馬海流が流れるため、高緯度のわりに温暖な気候で、沖合では暖流魚も漁獲することができる。一方、宮古の沖合には寒流の千島海流〔親潮〕が北海道・本州に沿って南流している。初夏にこの上をやませとよばれる湿った冷涼な風が吹く期間が長いと、東北地方の太平洋側は気温が上がらず、冷害による被害が深刻となる。やませが奥羽山脈にぶつかり雨を降らせたあと、乾いた風が日本海側に吹きおろるとき高温となる現象をフェーン現象といい、山形盆地では気温が40℃を超えたこともある。</p> <p>(2) Aは青森県、Bは山形県、Cは福島県を示している。</p> <p>① 青森県の生産量が全国の約半分、続いて長野県が全国の約5分の1をしめていることから判断できる。青森県を中心とするりんごの生産は明治時代になってからさかんになった。</p> <p>② ①～③の中で生産量が最も少ないことから判断できる。さくらんぼは「おうとう」ともいい、全国の約4分の3を山形県が生産している。栽培されている品種の中心は「佐藤錦」である。</p> <p>③ 西洋なしともいう。寒冷な気候に適した果樹で、以前はほとんどが缶詰とされていたが、近年は生で食べられるようになった。代表的な品種に「ナポレオン」がある。</p>
<p>2 ㊦ (1) a 北洋</p> <p>㊦ b 栽培</p> <p>㊦ (2) エ</p>	<p>2 (1) a 北洋漁業の基地となったのが、釧路港・函館港・根室港などで、このうち、釧路港の水揚量は日本一となったこともある。200海里の経済水域の設定、ロシア・アメリカ合衆国近海での漁業制限、公海でのさけ・ます漁の禁止などにより北洋漁業が衰退すると、釧路港などの水揚量は激減した。</p> <p>b 北海道では、ヒラメ、エゾアワビ、ニシン、ハタハタなどの栽培漁業が進められている。</p> <p>(2) Aは上川盆地、Bは石狩平野、Cは十勝平野、Dは根釧台地を示している。</p> <p>ア 上川盆地は夏の高温を利用して稲作がさかんである。</p> <p>イ 十勝平野は全国有数の畑作地帯となっている。</p> <p>ウ 石狩平野は北海道の稲作の中心地域である。</p>